

生きものの教室 ～春・夏・秋・冬～

環境教育として、毎年「生きものの教室」を年間4回（春・夏・秋・冬）開催しています。有馬富士自然学習センターから、生物について専門的な知識を持っておられる先生をお招きし、低・中学年の児童が、学校や母子の里山を散策し、植物や昆虫・魚など、様々な生きものの観察や採集を行っています。

【令和7年度の生きものの教室の様子】

春の生きものの教室（5月14日）

「学校の周辺にいる生きものの観察」

網を持って学校周辺を散策しました。チョウやトンボなどの生きものを捕まえたり、草花を採集したりした後、観察しました。更にスケッチをして細かい部分まで研究しました。有馬富士自然学習センターの先生から、生きものについて興味深いお話を聞くことができました。



夏の生きものの教室（7月2日）

「川の中や川辺にいる生きものの観察」

網を持って青野川周辺を散策しました。アカハライモリ、ヤゴ、ドンコなどの生きものを捕まえて観察しました。更にスケッチをして細かい部分まで研究しました。春の時よりもさらに細かい部分まで観察しました。捕まえた生きものを大型テレビに映し出し、有馬富士自然学習センターの先生から、体の各部分の特徴や役目について詳しくお話を聞くことができました。



秋の生きものの教室（10月22日）

「学校近くの植物や生きものの観察」

網を持って学校周辺を歩き、虫を捕まえました。また途中に咲いていた草花や木の実もたくさん採集しました。捕まえた虫や採集した植物を拡大ルーペや顕微鏡を使って観察し、観察記録を書きました。3回目の観察なので、観察記録もずいぶん詳しくなりました。



冬の生き物教室（1月28日）

「野鳥や冬芽の観察」

一面雪景色の中での生きものの教室となりました。今回は、双眼鏡での野鳥観察と冬芽の観察を中心に行いました。ほとんど生き物には出会いませんでしたが、雪道にウサギやシカの足あとを見つけたり、新しい葉を出す準備をしている冬芽をたくさん見つけたりして、寒さの中でもたくましく生きる生き物たちの息吹を感じることができました。



年4回の生きものの教室は、子どもたちにとって季節によってさまざまな表情を見せる母子の自然や、その中で命を育む生き物に対して、より一層興味や関心を持つ機会となっています。